

第4号

定価1年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

ともに声をあげませんか？

多くの国民が、「戦争をする国づくり」に反対し、「なぜ、そんなに急ぐのか」という疑念を払拭することなく、七月一日、安倍内閣は、集団的自衛権の行使容認をする閣議決定を強行しました。

血を流す覚悟を強いる問題

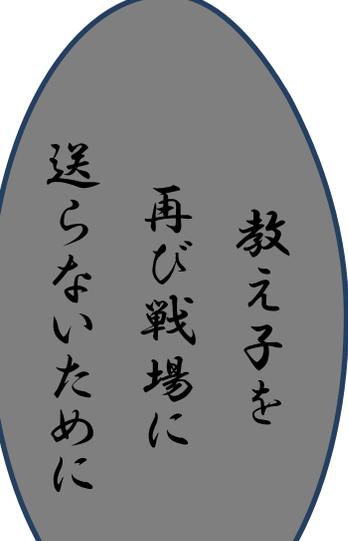
このことを、憲法学者で、改憲論者の小林節氏（慶応大 学名誉教授）は、「アメリカとともに戦争し、自衛官がいつぎに入って帰ってくる問題」で、それだけの覚悟を国民に強いる話であ



自衛隊が出動できるようになるということを意味します。

「戦争をしない」と世界に誓った

アジア・太平洋戦争によって、アジアで約二千万人、日本で約三〇万人の尊い命が奪われました。その痛恨の体験を踏まえて、世界に誓ったのが日本国憲法です。世界も「戦争をしない」と誓った国と認め、それゆえ敵国と見なされずにきました。六九年も戦争によって殺し殺されることもなく過ごせたのは、この憲法の存在が大きいことは誰もが認めるところです。



私たちは、集団的自衛権の行使容認に反対します。

ると端的に述べています。それだけのことを閣議決定だけで決めるのは、あまりにも横暴です。しかも、歴代の内閣法制局長官も今の憲法下では、「集団的自衛権容認」はありえないと述べています。

集団的自衛権容認とは

現憲法下でも、自国が攻撃を受けた場合に反撃する権利、いわゆる個別的自衛権があります。しかしこの集団的自衛権は、平たく言うと「アメリカなど仲の良い国を守る事ができる権利」です。それを容認するということは、仲の良い国が攻撃を受けたときも

「けんか」と「戦争」は違う

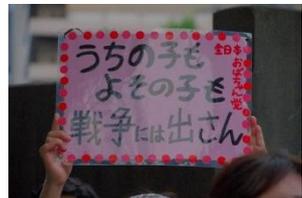
「友だちが殴られているのを見ているだけでいいのか」という議論をよく投げかけられます。しかし、子どもの「けんか」と何千万の人の命が奪われるかもしれない「戦争」と同じ土俵にのせ、国の方針を決めるのは、あまりにも軽々しい議論と言わざるを得ません。「戦争をしない」と誓った国だからこそできる国際平和を探る道をとことん議論するほうが重要です。

首相の言葉を信じられますか

「戦争に巻き込まれることはあり得ない」と安倍首相は堂々と述べまし

た。本当でしょうか。集団的自衛権が使えるようになった日本に、友だちのアメリカが「自衛隊を出して欲しい」と言われれば、断れるでしょうか？ 「明確な歯止めがある」と「武力行使の三要件」を安倍首相はあげていますが、その文言をみると、非常に曖昧です。例えば「明白な危険」がある場合とありますが、「明白な危険」という言葉は、解釈によっては、いかようにもなります。先制攻撃や地球の裏側まで行ったりできるということも可能です。結局、まったく大義もなかった

このようなことを元自民党の幹事長たちや国防の実務を長く努めた防衛官僚も発言し、マスコミを賑わせています。数年前まで、「戦争をする国なんてありえない」「徴兵制なんてあるわけない」と高を括っていました。が、着々とその方向に進んでいます。戦場に送るためにやっけない



徴兵制まで行き着きかねない

「命を落とす戦争が仕事になるなら、自衛隊の志願者が減り、徴兵制まで行き着きかねない」



総理官邸前に集まる市民

この「声」をあげていく仲間を募っています。ともに「平和」を求めていきましょう。

先のイラク戦争にも解釈いかによっては行けることもできるのです。そして、何より、オリンピック誘致のスピーチで福島原発の現状を「コントロール下にある」と世界に発信してしまふ首相の言葉を「はいそうですか」と素直に信じることはできません。

「ともに声を！」仲間を募っています

檜山教職員組合は、「かつて来た道」を辿らぬよう、「集団的自衛権行使容認」に「反対」の声をあげていきます。

そして、「教え子を再び戦場におくらない」ために

夏だ！民間サークルで学び、2学期の授業に生

研究会	日時	内容	会場	講演等	参加費
社会科教育・歴史教育 全道研究集会～胆振ま るごと授業づくり～	7/26 13:00～ 7/27 10:30～	コース別フィールドワー ク講座・コース別授業づく り・授業発表会	白老町・ 登別市・室蘭市 各所	なし	¥3,000
自然科学教育研究 全道大会（函館）	7/28 7/29 7/30	ワークショップ・分科会・ お楽しみ広場・フィールド ワーク（自然エネ発電）	函館市立 千代田小学校	なし	¥3,500
全国 作文教育研究大会	8/1 12:00～ 8/2 9:00～ 8/3 9:00～	公開授業・開会集会・講 座・分科会・記念講演	北海道新聞 ホール	記念講演「子どもを見る目、 社会を見る目、複眼を大切に」 福井雅英（滋賀県立大学）	¥5,000
日本生活連盟 夏季全国研究集会	8/7 10:00～ 8/8 9:00～ 8/9 9:00～	模擬授業・実技実践講座、 分科会	定山溪グランド ホテル瑞苑	「みんな笑顔で『ごちそうさ ん！』米作りは地域づくり」 山本英幸（芦別市農家）	¥6,000
北海道保健サークル 研究大会「つなぐ（つ なげる）恩・古・智・新」	8/5 12:30～ 8/6 9:00～	記念講演・分科会・講座	旭川一ヨ ホテル	（いじめ・不登校・ひきこも りについて）横湯園子（元北 海道大学教授、臨床心理士）	¥4,000
北海道 数学教育協議会	7/29 7/30	わくわく講座・講演・実践 報告・分科会・手作り教室	札幌市立 藻岩中学校	「算数・数学教育を考える」 伊禮三之（福井大学教授）	¥4,000
“育”フェスタ	7/26 13:00～ 7/27 9:30～	福井雅英ゼミ、H u g C a f e、しゃべり場等	厚沢部町鶉 （旧清和小）	田中孝彦（武庫川女子大） 福井雅英（滋賀県立大） 富田充保（札幌学院大）	¥1500程度

講演「発達障害の子どもと歩む学級づくり」要旨 その一

講師 楠 凡之先生（北九州市立大学 教授）

子どもたちを二つの側面からみる

子どもを見る上で、必要な視点の一つ目は、子どもの心の発達の側面から見ること。

女子の高学年集団で、ボスの子どもというなりになったり、外されるのがこわくていじめに走ったり、あるいは立場が逆転してボスの子どもがいじめられたりする。また、「中二病」と呼ばれる親の価値観をひっくり返すために荒れたり、ひっくり返すことができなくて、ストレスを内に抱えたり、いじめに関しても色々な要因がある。そのような子ども達の心の発達の側面から見ていくことが大切。

二つ目の視点は、児童虐待とか家族内環境の側面から見ること。

とくに言葉で自分を表現できるツールをもっていない子どもたちが抱えている問題は深刻。自分の居場所を脅かされるような場面があると、途端に周りから容赦ない言葉を浴びせかけられ、窮地に追い込まれる。

三つ目の視点が、発達障害を抱えた子どもがいじめやひきこもりの問題に関わってきているという状況からの側面から見ること。

発達障害は「LD、ADHD、アスペルガー、高機能自閉症、自閉症スペクトラム障害(ASD)」などがある。これらは連続体（スペクトラム）で、とらえた方がよいものではっきりと区別しづらいものである。

すべての子どもに居場所がある

発達障害の子どもと歩む学級づくりの難しさは、多々ある。例えば、発達障害のある子どもに先生がかかりきりだと、えこひいきだなんだと嫉妬心も交ざって指導が上手くいかない事が多い。また、子どもが普通に言ったことなのに、発達障害のある子どもが言うと、大人をバカにしたり反抗したりしたように聞こえてしまい、トラブルになる。難しさはあるが、発達障害の子どもを含むすべての子どもたちの居場所や活動がないと発達障害のある子の成長も見込めない。

指さしの持つ意味

指さしという行動は、他者と共有される関係が出てくる行動。自閉症の場合は、他所と共有されることができないので、「この指さしという行為が出てこないことが多い。使う言葉にしてもその子独特の意味があり、それは他者と共有されない言葉であり、すぐに理解されることがない。例）トーマス＝不快時の言葉」

他者とは違う意思や感情を表す言葉として「イヤ」という言葉あり、これは1歳半頃獲得していくが、自閉症の子どもはその言葉を使えないことが多く、「イヤ」という感情を内にストレスとして、ため込んでしまっていることがある。イヤという言葉を獲得できることがすごく大事。不登校の子どもでも行かないという言葉表現できることが、その後の「行くこと」とに繋がることにもなる。それが言えないうちは改善されないというところもある。

発言は三つの側面から子どもを捉え、学級づくりを生かしていくかを紹介しています【1】

